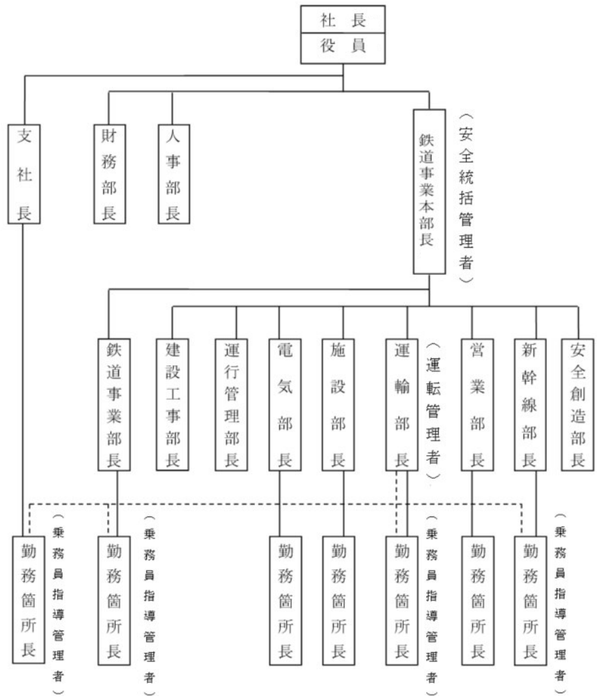
3 安全管理体制と方法

3-1 安全管理体制

経営トップの主体的関与の下に安全管理体制を確立し、輸送の安全の維持及び向上を図ることを目的として安全管理規程を制定しています。これに基づき、安全マネジメントのPDCAサイクルを維持・向上させるとともに、社員の声を反映した業務運営、安全総点検の実施等により安全管理の強化に努めています。2022年4月には社内組織の見直し等に伴い、輸送の安全の確保に係る体制の一部を変更しています。

◆輸送の安全の確保に係る体制



・鉄道事業法第十八条の三に基づき安全管理規程を定め、安全統括管理者及び運転管理者等を選任しています。

・「支社長」とは、長崎、大分、熊本、鹿児島、宮崎の各支社長をいいます。

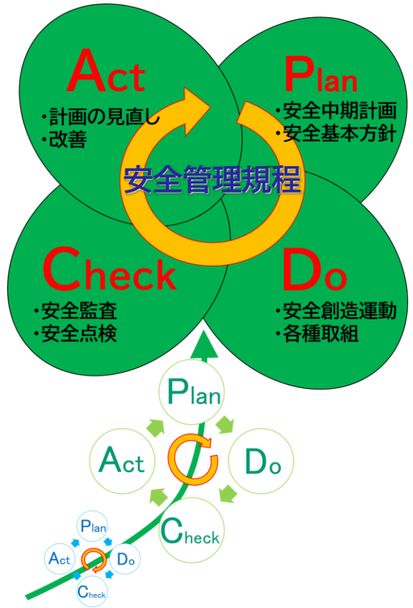
・「勤務箇所長」とは、現業機関（駅、区所等）の長をいいます。

◆安全管理体制に係る関係者の責務

経営トップ（社　長）	・輸送の安全の確保に関する重要な事項を決定する。 ・安全統括管理者がその職務を行う上での意見を尊重するとともに、必要により措置を講じる。
安全統括管理者（鉄道事業本部長）	・輸送の安全を確保するための運転取扱い、車両、鉄道施設の各部門を統括する。 ・安全意識の向上、関係法令等の遵守の徹底及び安全基本方針等の確実な実施を図る。
運転管理者（運輸部長）	・輸送の安全を優先する運行計画の作成及び改正、乗務員及び車両の運用、乗務員の育成及び資質の維持等を行う。 ・運転に関する業務について、関係部長等から必要な報告を求め、指示を行う。
乗務員指導管理者	・所属する乗務員の資質の維持、管理に努め、運転管理者へ報告する。

3-2 安全管理体制の維持・向上

安全管理体制は、計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→見直し・改善（Act）のPDCAのサイクルの確実な実行と、継続的な改善によるスパイラルアップを行うことが重要です。そのための基本となる安全管理規程を作成し、安全管理体制の維持・向上に取り組んでいます。



◆PDCAサイクルの構成

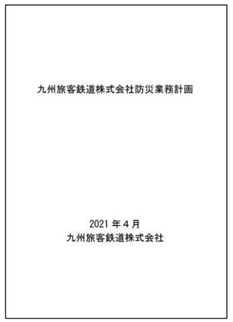
Plan（計画）	→	安全中期計画・安全基本方針
Do（実行）	→	安全創造運動・教育、訓練、コンクール
Check（評価）	→	安全監査・安全点検
Act（見直し・改善）	→	監査点検報告・翌年度計画策定

◆安全管理規程

安全管理規程に基づき、安全管理体制の維持・向上が図られます。2021年度からは、災害に対する事前の備えや被害軽減に関する内容についても、安全管理体制の一部として取り組みを展開しています。

◆自然災害への対応計画

自然災害が発生した場合でも早期の対応及び事業の継続ができるように、防災業務計画・防災業務実施計画などを策定しています。これら計画に基づき、食料の備蓄や非常用電源の配備、緊急時の体制構築、社員の安否確認方法の整理や教育・訓練を実施するとともに、定期的な一斉点検を行うことで、日頃より自然災害への対応能力向上を図っています。



平時の準備（事前の備え）	直前の準備	発災	直後の応急（初動）	復旧（事業継続）
・津波避難階段の設置 ・大規模地震想定訓練	・計画運休の実施 ・お客さまへの情報公開		・安否確認・自動参集 ・対策本部の設置	・非常用電源の配備 ・点検範囲の適正化

防災業務計画・防災業務実施計画のポイント

・安否確認の実施
・非常参集社員の指定
・対策本部の自動設置
・情報連絡体制の整備
・異常時マニュアルの整備
・非常用電源の配備
・保存食糧、飲料水等の備蓄
・全社一斉訓練の実施
・関係機関との協力

3-3 安全性向上の取り組み

安全の確保のためには、社員一人ひとりが高い安全意識を持ち、安全について自由に意見を交換しあえる風通しのよい組織であることが大切です。そのために「安全創造運動」を2006年度から継続展開し、安全風土の形成に努めています。

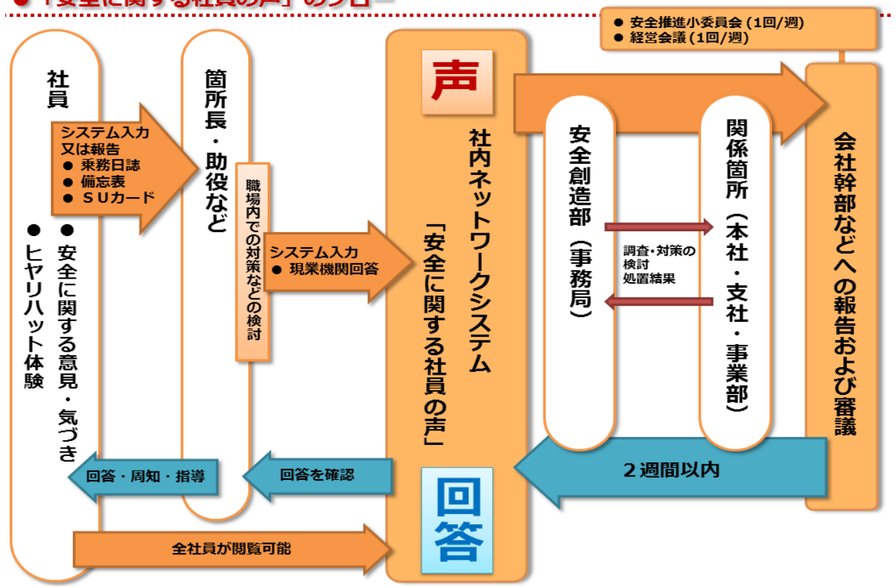
◆安全創造運動2022の展開

2022年度は、『命を守る！！ ～ルールを理解し、正しく実践していますか？～ 』をスローガンに掲げ、「安全創造運動2022」を展開しました。また、安全創造運動における主な取り組みの一つである 「安全に関する社員の声」は、社員の安全に関する「意見や気づき」及び「ヒヤリハット体験」を共有し、事故や危険の芽を未然に防止するためのシステムです。内容と対策を2週間以内に経営会議で報告し、その情報は社内ネットワークにより全社員に開示しています。

［安全創造運動2022パンフレット］

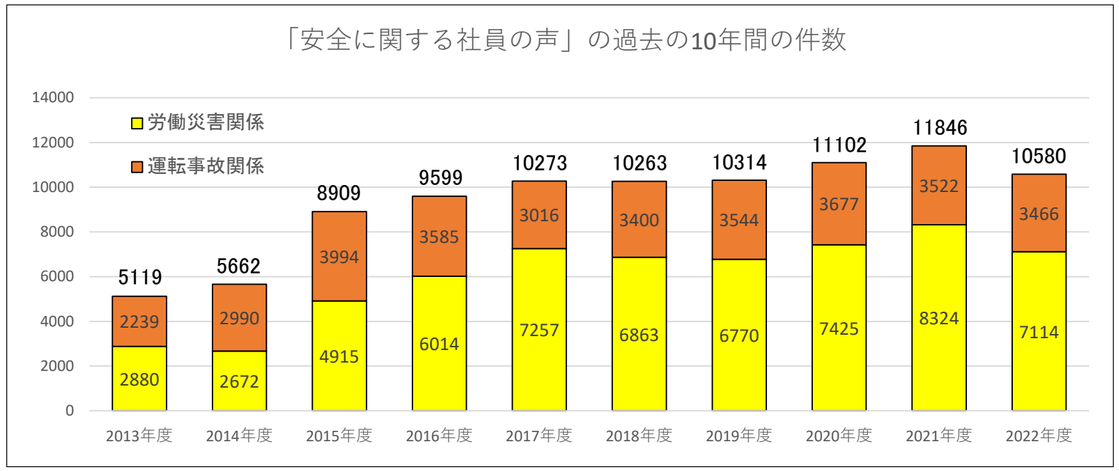
［ポスター］

● 「安全に関する社員の声」のフロー



［「安全に関する社員の声」の登録から対策実施までのフロー図］

■「安全に関する社員の声」の件数



■「安全に関する社員の声」に対する表彰

「安全に関する社員の声」をより一層促進する目的で、毎年各種表彰を実施しています。

◆ 安全創造大賞

年間を通じて、多くの声に対し迅速に改善を図り、鋭い気づきや優れた意見の声を積極的に出し、安全創造運動の推進に貢献した職場や安全をつくるために顕著な功績をおさめた社員に対する表彰です。2022年度は、個人の部で3名、職場の部は1職場を表彰しました。

◆ 安全創造賞

安全に関する高い問題意識がうかがわれ、安全に関して優れた意見等であると認められた声に対する表彰です。2022年度は3名を表彰しました。

◆ ヒヤリハット推進賞

事故等の未然防止や安定した輸送の確保に大きく貢献した「意見・気づき」の声に対する表彰です。2022年度は、117名を表彰しました。

◆ ヒヤリハットオープン賞

自らのヒヤリハット体験を積極的に声に出すことで、事故等の未然防止や安定した輸送の安全確保、労働災害の防止に大きく貢献した声に対する表彰です。2022年度は、6名を表彰しました。

◆ 想定ヒヤリ賞

想定ヒヤリの声で、安全性の向上や安定した輸送の確保に大きく貢献した声に対する表彰です。2019年度に新たに制定し、2022年度は、29名を表彰しました。

※想定ヒヤリとは･･･ヒヤリハットや事故･ケガが未来に起こる以前に、危険に気づき、出す声のこと

3 安全管理体制と方法

■「安全に関する社員の声」による改善事例

2022年度に寄せられた10，580件の意見・気づきやヒヤリハット体験のうち、対策が必要な声は360件あり、これらについて対策の実施又は対策実施の方針を決定しました。対策が実施された「安全に関する社員の声」のうち、一例を紹介します。

事 例

「安全に関する社員の声」

日豊本線別府大学駅～別府駅間の巡視中に、上り線沿いのフェンスが線路方向に倒壊しているのを発見しました。
フェンスが倒れ列車の運行に支障をきたすのではないかと思いヒヤリとしました。

改善前

「対策」

関係箇所に連絡を行い、人員を確保しつつ、対応が完了するまで現場監視と列車見張りを継続しました。倒れていたフェンスを撤去し、一般の方が線路に立ち入れないように杭を立ててロープで塞ぎ、処置を行いました。

改善後

事 例

「安全に関する社員の声」

筑肥線の調査中に官山踏切に設置してある交通規制標識（大型車の通行禁止）の支柱の根本が腐食して倒れているのを発見しました。
運転者が気付かず通行して脱輪等を起こし踏切支障が発生すると思いヒヤリとしました。

改善前

「対策」

所轄警察署へ標識の補修を要請し、標識の復旧を実施しました。

改善後

■安全創造運動の記録

展開された安全への取り組みは「安全創造運動の記録」として毎年まとめています。「安全創造運動の記録」は、社内のネットワーク上に掲載しており、全社員が閲覧することができます。

■安全創造・サービスを社風へ取り組み発表会全社大会

2022年6月2日、JR九州ホールにおいて「安全創造・サービスを社風へ取り組み発表会全社大会」を開催しました。安全に関する発表は、職場の取り組みを報告し共有、水平展開を図り、JR九州グループ全体の安全をつくることを目的としています。 本社直轄及び各支社大会から選出された14職場が、各職場で行っている安全をつくるための取り組みについて発表を行いました。

最優秀賞

小倉信号通信区

「安全創造委員会」

安全を全員でつくっていくために安全創造員会を設置し、その取り組みの一つとして見通し距離確認アプリを作成しました。これにより確認作業に費やしていた時間を大幅に削減することができました。また、駅や踏切の電子カルテを作成し、過去から今、そして未来にわたって足跡を残していく新たな基盤を構築しました。

会場審査特別賞

JR九州バス株式会社

「eco運転は経費削減！車内事故も削減！～お客さまにも環境にも優しいバス会社を目指して～」

エコ運転に必要な知識を全乗務員へ教育し、さらにいすゞ自動車九州さまの社員による「省燃費運転講習」を開催することにより社員のeco運転習得を目指しました。
また、急加速やアイドリング時間等の経済運転成績を日々チェックし、必要に応じて社員に指導を実施してきました。
その結果、燃費が向上しコスト削減を達成できただけでなく、安全性の向上にもつながりました。

発表会の様子

3 安全管理体制と方法

◆現場とのコミュニケーション

現場と本社の各部門との間でのコミュニケーションを強化し、安全に関する課題や情報の共有化を図るため、意見交換会等の様々な取り組みを行っています。

■全社員との意見交換会

社長や鉄道事業本部長（安全統括管理者）と現場との意見交換会を開催しています。各職場における安全に関する日頃の取り組みや、それらを推進する上での問題点などが直接社長に伝えられ、現場の実情や課題等について共有化を図っています。また、安全について思っていることを気楽に話し合い、聞き合うことで、風通しの良い職場づくりを目指しています。

［社長との意見交換会］

［鉄道事業本部長との意見交換会］

■SU（セーフティ・アップ）ミーティング

安全推進プロジェクト及び技術指導プロジェクト担当者による現場巡回の結果報告や事故防止の取り組みをはじめとした、安全に関する取り組みの情報共有を図るため、社長や鉄道事業本部長（安全統括管理者）及び各主管部長、現場長等が出席して意見交換を行っています。

［SUミーティング］

■安全推進プロジェクト・技術指導プロジェクトの現場指導等

本社各系統の部署では、安全推進プロジェクト又は技術指導プロジェクトを配置して、各プロジェクト社員による現場巡回や勉強会、意見交換会等により、現場の意見や本社の安全に対する方針を共有しています。また、意見交換にあわせて、安全に関する研究・思考及び情報共有を通じて、中核社員の安全意識の向上を図る「安全ラボ」を行っています。

［安全推進プロジェクトとの意見交換会］

［安全ラボ］

［併結訓練］

◆安全推進委員会の開催

鉄道運転事故や輸送障害及び労働災害等の未然防止や再発防止に関する対策の審議や、安全に関する情報の共有を目的として「全社安全推進委員会」を毎月開催しています。ここで決議された対策や情報等については、各部門毎の安全推進委員会やグループ会議等で共有されるとともに、 撮影した議事動画も併せて展開されます。

［全社安全推進委員会］

［議事動画配信］

◆鉄道における安全の状況報告

鉄道事業における運転事故、輸送障害及び労働災害等の発生状況については、四半期毎に経営会議及び取締役会において報告され、安全に関する取り組みや管理体制が適切であるか確認することで、取締役までが一体となって安全性の向上に取り組んでいます。

◆JR九州グループ一体となった取り組み

社員による危険な事象や労働災害の発生状況や安全対策等の情報共有を図る目的で、JR九州グループ（鉄道関係6社）の安全担当の責任者との懇話会・施設見学会を実施しています。

［安全対策等の情報共有］

［グループ会社の取り組み紹介］

［施設見学］

［救援訓練］

［異常時対応訓練］

［脱線復旧訓練］